

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	722	施策	文化財の保存と活用
管理事業	博物館事業	所管部局	地域教育部

1	所管 室課	文化財保護課	事業名	博物館管理事業		
事業概要						
博物館管理						
活動実績		年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
・保守点検業務や警備、清掃業務、施設修繕を実施した。 ・特別展等に併せて無料観覧日を実施することで、観覧機会の提供を行った。 ・博物館協議会を開催し、事業の実績や計画を報告するとともに、当協議会委員による外部評価を受け、運営の改善や事業の水準の維持向上に努めた。		決算額 (千円)	410,736	152,330	70,205	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
		一般財源 の 比率(%)	100.0	100.0	99.9	☐ 有効性 ■ 効率性 ☐ 公平性 ■ 持続可能性
		事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
開館日数 令和3年度…234日、令和4年度…288日、令和5年度…292日 利用者数 令和3年度…12,514人、令和4年度…14,658人、 令和5年度…16,360人		・博物館前の府道整備工事や紫金山公園 魅力向上事業に併せて館の大規模修繕を 進める必要がある。 ・バリアフリー化や将来の教育環境を踏 まえて設備更新を進める必要がある。 ・博物館で収集した資料は、原則として 廃棄できず今後も増加するため、収蔵ス ペースを確保していく必要がある。				継続 吹田市公共施設（一般 建築物）個別施設計画 に基づき、整備を進め る。

2	所管 室課	文化財保護課	事業名	博物館展示等事業			
事業概要							
調査研究、収蔵保管、公開展示							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
【調査研究】 調査研究の成果は、企画展示や講座、展示図録、博物館だより、博物館館報を刊行し公表を行った。 【収蔵保管】 館蔵資料数は前年度から7,591点増加し、後世に残すべき資料として収蔵できた。新規収蔵資料に対しては燻蒸（年2回）を行い、また、館内の害虫棲息状況や浮遊菌等の環境モニター調査を年2回実施し、博物館資料に対する適正な保管環境を維持した。 博物館所蔵資料データベースをホームページ上に公開し、所蔵資料の活用を促進を図った。 【公開展示】 令和5年度は特別展や企画展を6回開催し、それぞれのテーマに関連する講演会・講座等を延べ55回実施し、うち25回は子供・親子を対象とした。あわせて昨年度に引き続きバーチャルミュージアムの充実を図った。 春季特別展では、新たに収集した大坂の陣関連の古文書を初公開し、秋季特別展では吹田ゆかりの大坂画壇の絵画を展示する等、吹田の地域史に焦点を当て、来館者アンケートでも「これまで知らなかった吹田の歴史が分かった。」などの記述が多くあり、市民の歴史学習に寄与できた。			決算額 （千円）	15,477	14,244	21,938	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率（％）	95.1	92.6	95.3	☐ 有効性 ☐ 効率性 ☐ 公平性 ■ 持続可能性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
			・最新の学術的知見を反映した展示内容に 常設展示をリニューアルする必要がある。 ・調査研究、収集、公開といった博物館 に求められる機能を十分に発揮するため、 資料のデジタル化の推進等に努める。				拡充
							常設展示リニューアル のため、市民を対象と した意識調査や他館の 動向調査等を外部委託 により実施する。

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	722	施策	文化財の保存と活用
管理事業	文化財保護事業	所管部局	地域教育部

1	所管 室課	文化財保護課	事業名	文化財保護事業		
事業概要						
文化財調査、文化財公開・啓発、文化財保存・活用						
活動実績		年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
・文化財保護審議会を開催し、市内所在の文化財の保存活用状況等について報告するとともに、審議会の在り方について整理した。 ・指定・登録文化財の所有者等を対象にアンケート調査を実施し、今後の保存等に必要の支援を検討した。 ・開発等に伴う埋蔵文化財の調査を実施し、調査報告書を作成した。 ・業務プロセスの改善として、埋蔵文化財に関する開発事業者からの照会等に対応するため、遺跡地図情報を電子化し、ホームページで公開した。 開発工事等に伴う埋蔵文化財等調査件数 令和3年度…107件、令和4年度…117件、令和5年度…160件		決算額 (千円)	15,982	13,568	24,596	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
		一般財源 の 比率(%)	93.6	92.3	88.8	☐ 有効性 ■ 効率性 ☐ 公平性 ☐ 持続可能性
		事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
		・埋蔵文化財調査の件数が多く、さらに 業務プロセスの改善を行う必要がある。 ・登録文化財の維持や管理に対する支援 の在り方を検討する必要がある。				継続
						人材育成を図りながら、調査・啓発活動及び所有者等への支援を実施する。

2	所管 室課	文化財保護課	事業名	旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）保存活用事業			
事業概要							
旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）保存活用							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
・国指定重要文化財である旧西尾家住宅を後世に引き継ぐため、保存修理及び耐震補強工事を令和2年度から実施しており、令和5年度は主屋や米蔵等建物本体の工事を実施した。 ・一般公開については文化庁と協議のもと、工事による範囲の制限はあるが、週3日、1日3回予約制により継続した。 ・当該工事は貴重な機会であることから調査研究の資料とするとともに、工事現場見学会を実施し、市民に対して文化財保護の啓発に努めた。 入館者数 令和3年度…96人、令和4年度…147人、令和5年度…250人			決算額 (千円)	128,465	56,416	168,804	※課題があるものは■ □ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	16.6	49.6	16.5	■ 有効性 □ 効率性 □ 公平性 □ 持続可能性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				今後の実施計画 の方向性・内容
			・全国的にも機会の少ない重要文化財の大規模修理工事であり、想定外の事態の発生やそれに伴う工程、設計の見直しなど、工事の進捗管理が難しい。 ・工事期間中も引き続き啓発に努めるとともに、活用に向けた検討を進める必要がある。				継続 大規模修繕を円滑に進めるため、工事の進捗管理に努める。

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名

第4次総合計画 管理事業を構成する予算事業の評価シート

評価対象年度 令和5年度

施策コード	722	施策	文化財の保存と活用
管理事業	文化財保護事業	所管部局	地域教育部

3	所管 室課	文化財保護課	事業名	旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）保存活用事業			
事業概要							
旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）保存活用							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
・国登録有形文化財及び市指定有形文化財として、適切に保存・活用していくことを目的に、保存活用計画を策定した。 ・一般公開については、建物（庭園も含む）と庭園を分けてそれぞれ週3日、1日3回（庭園のみは2回）実施するとともに、4月と11月には特別公開を実施した。 ・公開に当たっては市民ボランティアの協力により実施。 入館者数 令和3年度…499人、令和4年度…1,096人、令和5年度…943人、 春の特別公開 令和3年度 4月3日～4月11日、入館者数…134人 令和4年度 4月2日～4月10日、入館者数…174人 令和5年度 4月2日～4月10日、入館者数…187人 秋の特別公開 令和3年度 11月20日～11月28日、入館者数…198人 令和4年度 11月22日～11月30日、入館者数…218人 令和5年度 11月22日～11月30日、入館者数…251人			決算額 (千円)	14,410	32,636	19,757	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	99.8	99.9	99.5	■ 有効性 ☐ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				☐ 公平性 ☐ 持続可能性
			・耐震性に課題があり、保存活用計画に沿って耐震補強工事が必要である。 ・文化財保護啓発やボランティアの確保を進めるため、近隣大学等との連携を検討している。				今後の実施計画 の方向性・内容
				継続			
				保存活用計画に基づき、具体的な補強案を決定していく。			

4	所管 室課	文化財保護課	事業名	旧西尾家住宅大規模修繕基金積立事業			
事業概要							
旧西尾家住宅大規模修繕基金積立							
活動実績			年度	R 3	R 4	R 5	評価の視点
積立金額 令和3年度…5,644,000円 （うち前年度積立残し額 15,000円） 令和4年度…403,000円 （うち前年度積立残し額 36,000円） 令和5年度…5,281,000円 （うち前年度積立残し額140,000円） 寄附金総額 令和3年度…5,805,000円、令和4年度…367,000円、令和5年 度…5,187,000円、 寄附件数 令和3年度…22件、令和4年度…12件、令和5年度…12件			決算額 (千円)	5,644	403	5,281	※課題があるものは■ ☐ 市民ニーズ、社会的役割
			一般財源 の 比率(%)	0.3	8.9	2.7	☐ 有効性 ☐ 効率性
			事業自体の課題や対応状況・ 施策推進への貢献に関する課題				☐ 公平性 ☐ 持続可能性
			・材料や労務単価の上昇から工事費が増 加しており、財源確保に向けてさらに啓 発を行う必要がある。				今後の実施計画 の方向性・内容
							継続
市報・HPを活用し広く 基金への寄附を募る。							

上記以外の予算事業 ※ 当該年度で廃止した事業、繰出事業などはこちらに記入。

所管室課	事業名	所管室課	事業名